

子どもの問いや対象との関わり方を大切にした生活科の支援

1 研究課題

米は、子どもたちにとって、食という楽しい体験につながる対象であるとともに、児童をとりまく社会・自然・自分と自分自身とのかかわりに気づき、深めていく一つの糸口になると考えられる。

そこで、子どもたちに身近な米に焦点を当て、米について「なぜだろう、調べてみたい。」「どうやるのかな、やってみたい。」という、一人一人の問題を見つけることを通して、活動や体験の中での「おもしろさ」を感じてほしいと願っている。また、自分なりの方法を考えて、自分の力で追究する活動を通して、米と自分とのかかわりに気づいたり、工夫してより豊かな生活を作っていく態度を育成したいと考えた。

本稿では、単元「おこめをたんけんしよう」を通して、「子どもの豊かな気づきや感じとりを育む生活科の支援」のあり方について考察していきたい。

2 単元の概要と研究の視点

(1) 単元の概要

① 学習のねらい

ア 毎日食べている米と自分との関わりには気付いたり、より楽しく豊かな生活にするために自分なりに工夫することができる。

イ 米について、自分なりのめあてを見つけたり、調べるための自分なりの方法を考えることができる。

ウ 米について、調べたり、実際に行ったことを自分なりの方法で表現することができる。

エ 自分の活動について、ふりかえったり、新しいめあてを見つけることができる。子どもの豊かな気づきや感じとりを育む生活科の支援

② 学習の展開

第一次 おこめたんけんの計画をたてる。…………… 2時間

第二次 おこめたんけんをする。…………… 2時間（+家庭で）

第三次 見つけたことをみんなに知らせる。…………… 3時間

第四次 次のおこめたんけんを考える。…………… 1時間（+家庭で）

③ 本単元に関わる児童の実態（面接による聞き取り）

本実践は、複式学級低学年で実施した。学級の児童は、次のように構成さ

れている。

第1学年10名（男子5名・女子5名），第2学年10名（男子5名，女子5名）

本単元に関わる児童の実態（面接による聞き取り）は，次に示すとおりである。

ご飯についての実態調査結果（面接による聞き取り）
1994，9，9（金）実施

*面接による聞き取り

<質問項目>

- 1 ご飯は好きですか。
 大好き（9）
 好き（11）
 あまり好きではない（0）
 嫌い（0）
- 2 1日の内，いつご飯を食べますか。
 朝食
 ほとんどご飯（9）
 ご飯かパン（1）
 パンのみ（8）
 シリアル（1）
 バナナか食べない（1）
 夕食
 ほとんどご飯（20）
 ご飯以外（0）
- 3 ご飯で好きなメニューは何ですか（重複回答あり）
 お茶漬け（5）カレーライス（4）
 すし（4）カツ丼（3）おにぎり（3）
 親子丼（2）チャーハン（2）
 日の丸弁当（1）おかゆ（1）
 ご飯をおかずにご飯を食べる（1）
 卵かけご飯が好きだけど食べさせてもらえない（1）
 （コレステロールを家族が気にする）
- 4 ご飯を家でどうやって作るか知っていますか。
- 5 家でご飯を作っているのを見たことがありますか。

児童番号	ご飯が好きか（理由）	一日の主食は何か			ご飯を炊いたことがあるか	抽出児（3名）
	◎大好き ○すき △ ×きらい	朝	昼	夕		
1年生（男子）						
①	○	パン		ご飯	○母と一緒に	
②	◎変身する	ご飯		ご飯	◎一人で可能	
③	○	パン		ご飯	△母と一緒に	
④	◎わからない	ご飯		ご飯	△見ただけ	
⑤	○	パン		ご飯	×見たこと無	○
（女子）						
⑥	○	ご飯		ご飯	△見ただけ	
⑦	◎わからない	パン		ご飯	○母と一緒に	
⑧	◎おいしい	パン		ご飯	△見ただけ	
⑨	◎甘い	ご飯		ご飯	○母と一緒に	
⑩	○	シリアル		ご飯	×見たこと無	○
2年生（男子）						
⑪	◎ほかほか	パン		ご飯	×見たこと無	
⑫	◎おいしい	ご飯		ご飯	×見たこと無	
⑬	○	バナナ		ご飯	○母と一緒に	
⑭	◎おいしい	ご飯		ご飯	○母と一緒に	
⑮	◎おいしい	ご飯		ご飯	×見たこと無	○
（女子）						
⑯	○	ご飯		ご飯	○母と一緒に	
⑰	○	ご飯		ご飯	◎一人で可能	
⑱	○	パン		ご飯	◎一人で可能	
⑲	○	パン		ご飯	◎一人で可能	
⑳	○	ご飯		ご飯	◎一人で可能	

なお、「米」に関わって、本学級の保護者に対してアンケート調査を実施した。次はその主なものである。

「米に」かかわる各家庭の実態（アンケートによる調査）

複式低学年 保護者20名 実施日 1994. 9. 7（水）実施

1 家庭では、どのような「米を使ったもの」をよく食べますか。

どのようなものを、自宅で手作りしていますか。

*数字はよく食べる（時々も含む）ものとして挙げた保護者の数、重複回答あり

() 内の数字は、家庭で手作りしているもの

①餅 18 (4) ②さくらもち 17 (5) ③かしわもち 15 (5) ④赤飯10 (9)

⑤おかき・あられ 10 (1) ⑥せんべい10 (0) ⑦米味噌10 (1) ⑧団子7 (6)

⑨おはぎ6 (4) ⑩甘酒4 (3)

2 外国の米料理について、どのようなものを家庭で作っていますか。

チャーハン (7), ドリア・ライスグラタン (5), パエリア (3), ライスプディング (1)

中華ちまき (1)

3 子どもに伝えたいと考えている家庭の味（米にかかわって）は何ですか。

・おはぎ (3) 寿司 (3) 炊き込みご飯 (1) かしわもち (1) 月見団子 (1)

・日常の白飯以外はほとんどやっただことがない。これから作ってみたい。(6)

4 子どもに話したい保護者の「米や米料理」の思いで（一部抜粋）

・おもちを砕いて雑あられを作ってもらった。・おばあさんのおはぎについて

・小さい頃、米やご飯を粗末にして叱られたこと・小さい頃、お月見に団子汁を食べたこと

(2) 研究の視点

① 豊かな気づきや感じとりを育む生活科の学習ステップ

ここでは、「子どもの豊かな気づきや感じとりを育む生活科の支援」を重点課題として、「自分なりの問題を見つける」段階、→「自分なりの解決方法を考えて実践する」段階に焦点を当てることにした。

そのためには、めあてを追究するために自分なりに調べたこと・やってみたいことを友だちに表現したり、友だちの表現や受けとめる場を大切にしていきたい。この中で、子どもたちの「豊かな気づきや感じとり」はさらに育まれていくと考えている。

ここでは、次のような授業仮説を設定し、実践した。

自分なりの方法で調べたり、やってみたいことを友だちに伝えたり、友だちの表現を受けとめたりすることができるならば、新たな問題を見つけたり、自分なりの方法を考えて活動する楽しさを味わうであろう。

② 豊かな気づきや感じとりを育む生活科の支援

豊かな気づきや感じとりを育む教師の支援において、基本となるものは、＜自分で気づき、判断し、実践する活動の重視＞であると考えている。学習のステップの中で「自分なりの問題を見つける」（めあてをもつ）段階

の支援としては、一人一人の子どもの思いや願いをとらえて、問題の見つけ方、発見の仕方にかかわる助言をすることを大切にしていける。また、「自分なりの解決方法を考えて実践する」（めあてを追究する）段階では、一人一人の活動を共感的に理解し、助長していくことを重視し、子どもの思いや願いが生きる弾力的な学習展開等を考えていく。また、支援にあたっては、一人一人の児童の活動を見守りながらその方法や時期をとらえていくようにする。

以上の研究の視点をふまえて、単元「おこめたんけんをしよう」を実施した。

3 単元「おこめをたんけんしよう」における学習の実際

(1) 本時の意図

本時（第三次 第二時）は、米について、児童一人一人の「なぜだろう」「どうやるのだろうか」という問いから生まれためあてについて、自分なりの方法で調べたり、やってみたことを友だちに伝える活動である。発表に対して、友だちが驚いたり、興味をもったことを通して、毎日食べている米について、問題を見つけ、調べることで自分に気付かせようとした。また、友だちの発表を実感として受けとめることにより、新かな見方・感じ方を体験し、つぎの問題を見つけたり、自分なりの方法を考えて活動する楽しさを味わわせたいと考えた。

(2) 本時のねらいと評価の観点

① 本時のねらい

米について、調べたりしたことを、自分なりの方法で表現したり、友だちの表現を楽しく受けとめることができる。

② 評価の観点

関心・意欲・態度	自分が活動したことを、どの様な態度でつたえようとしているか。 友だちの表現に対して、どの様な関心をもっているか。
思考・表現	活動したことをどの様な方法で表現しようとしているか。
環境や自分への気付き	米と自分との関わりについて、どの様な気付きをしているか。

(3) 学習の流れ

学 習 活 動	支 援 活 動	
	みとりの視点	具体的な支援の方法
1 おこめについて、たんけんしたことをみんなに知らせる準備をする。 ・発表につかうもの	○自分が表現を行うために、どのような準備をしようとしているか。	1 自分の伝えたいことが、友だちにより分かってもらえるように、発表の準備の時間をとる。会場の準備は、子どもたちが行うが、その際、一人一人の表現が生きる場となるように支援する
(本時の活動) 2 おこめについて、しらべたことや、やってみたことを発表する。 ・しらべてみたこと ・やってみたこと 聞いた・見た 食べた・触った 作った・試した ・思ったこと ・考えたこと 3 友だちの表現を見たり、聴いたりして思ったことを話し合う。	○これまでの活動をどのように表現しようとしているか。 ○友だちの活動や表現について、どのような関心をもったか。 ○友だちや自分の活動や表現について、どのようなふりかえりをしているか。	2 教師は、児童と同じ位置で一緒に表現を受けとめ、驚いたり、質問したりしながら、児童のよさが出るようにする。 友だちの探検の方法（食べる・嗅ぐ・触れるなど）で、可能なものは全員で行えるようにし、多様な感じ方（味・香り・手触り）を実感としてとらえることができるようにする。 3 本時の活動をふりかえる場を設定することにより、友だちや自分のよさや気づきから、新たなめあてへとつなぐ
(次時への発展) 4 次にやてみたいこと、もっと調べたいことをみつける	○次の活動に対して、どのような意欲や関心をもち始めたか。	4 またつづけてやりたいこと、新しく調べたり、やてみたいことを問いかけることにより、活動の発展を図る。

(4) 主な学習活動と支援

次に示すのは、上記の学習の流れの中の、2（お米について、調べたことややってみたことを発表する。）の活動と抽出児の反応である。

児童は、①～⑤（一年生男子）、⑥～⑩（一年生女子）、⑪～⑮（2年生男子）、⑯～⑳（2年生女子）である。

児童のめあて(発表児童) ・児童の表現活動	抽出児の反応		
	児童⑮(2年男)	児童⑤(1年男)	児童⑩(1年女)
<p>ア) お米にはどんな名前があるか(児⑬)・紙に書いて発表する。</p> <p>イ) お米はどうやったらごはんになるのか(児④⑨) ・自分が炊飯器で炊いたごはんを見ながら発表する。 ・みんなに試食してもらう</p> 	「知ってる。」	「たべたい。」	真剣に聞く 「わあ。」
<p>ウ) 三角おむすびを作ってみたい(児①⑤) ・ラップを使っておむすび作りを実演する。</p> 	「いいにおい」 一生懸命に聞く。	「(はくの) ご飯がありません。」 配られると、箸を使わず手で食べる「おいしい。」 発表者； 「①君のお母さんから教えてもらいました。」 「塩のいる人は今の内にふります」	にこっと嬉しそうな表情 「ああ、たべたい」 体を乗り出して、見る。
<p>エ) 大好きな6年生のお兄ちゃんの顔をおにぎりで作る(児⑥) ・自分でつくったおにぎりを見せる。</p> <p>オ) 焼きおにぎりはどうやって作るのか(児⑦) ・紙でフライパンやおにぎりの模型を作り、身体表現する。</p> <p>カ) 一番おいしいお茶づけを探す(児③⑩) ・5種類のお茶漬けの絵を見せてクイズ形式にする。</p>	拍手をする 拍手をする	初めて拍手をする 「フライパンがすごい。」	拍手をする 「にてる、すごい」 周りの同意を求める 質問があるのか挙手をする。当ててもらえない。
<p>キ) 外国の人はご飯を食べるのか(児①⑫) ・外国の人や外国へ行った人からの聞き取り調査の結果を紙に書いて説明する。</p> <p>ク) 米のものは何か(児⑱) ・農家の人の仕事の様子の写真や稲の実物を見せて説明する。</p> 	クイズに対し、つぶやきながら挙手「さけ茶づけが一番おいしいと思うんだけどねえ。」 一生懸命に聞く。 一生懸命に見る。 児童⑱の父親が実演している写真をじっと見つめる。「すごい。」	「水づけなんか、一番まずそう。」 「うめほし茶づけほく嫌い。」 黙って見ている。 椅子から乗り出して見る。 稲を手にとって、米を出して見る。	発表者； 「いやだあ」の後、児③と打ち合わせが終わる。 「一番おいしいのは？」「一番まずいのは？」 真剣に見ている 発表後も文字を読むことに熱中し、拍手をしない。 稲に興味を示してよく見ている。

第三章 豊かな感性を育む授業実践

<p>ケ) お米屋さんパンを食べるか パン屋さんご飯を食べるか。 (児⑭⑮) ・それぞれの店の人からの聞き取り調査の結果を紙に書いて説明する。 コ) おだんごは本当にお米からできるのか (児⑧) ・だんごの粉(米の粉)と前日母親と一緒に作った学級人数分のみたらし団子を示し説明する。 サ) お米でできているおかしは、あるか (児⑯⑰⑱⑲) ・店で売っていた数種類の米菓と、その他見つけた米酢・米味噌・餅・米ぬか石けん等の実物を提示する。</p>	<p>発表者: 「お米やさんもパンを食べるそうです。」 店で売っていた米入りのパンを示す きちんと座って聞く。</p> <p>人数分あると分かったら、盛んに拍手する。</p> <p>みんなの後ろの方から見る。</p>	<p>静かに見る。</p> <p>顔を上げ、嬉しそうにだんごを見る。</p> <p>ときどきみる。</p>	<p>お米の入ったパンをじっと見ている。</p> <p>「なにだんごなの」「食べていいの」 大きな拍手をする</p> <p>他の友だちの間から、ときどきのぞいて見る。</p>
--	--	---	---

上記の活動における教師の支援としては主に次の点を中心とした。

○ 一人一人のめあてとその表現が生きる場の設定(発表順, 発表場所)

調べたり、やってみたことが、より豊かに表現でき、その表現を十分受けとめることができるように、発表場所は限定せず、一人一人の児童と話し合いながら決定した。

上記の表現キ) 教卓の位置で黒板を利用して、書いたものを提示する。

表現ク) 教室の後方の広いスペースを活用して、小さな写真や稲がよく見えるようにする。

表現サ) 畳の上で(教室には四畳半の畳コーナーが常設)座卓を活用してみんなが手に取れるようにする。

また、実態調査の結果、米に関してこれまでの経験においてかなり違いがあり、1・2年生の複式学級であることから、発達段階を考慮し、発表順を意図的に決定した。児童に身近な内容から、少しずつ発展していくように、今回は次の順序にした。

- ① 日常生活により近いご飯に関するもの(アイウエオカ)
- ② 米のものにかかわる内容(キクケ)
- ③ 米を加工したものなどの内容(サシ)

○ 児童一人一人の調査活動や思いが生きる表現力方法の支援

- ・ 前時までの一人一人の表現の工夫に対する助言
- ・ 本時の活動について、「よさ」を他の児童に気づかせる言葉かけ

上記の活動 キ)「外国の人はご飯を食べるのか」の場合は、次のような言葉かけをおこなった。

児⑪：ホンジュラスでは、パエリアというごはんのりょうりを食べるそうです。

スペインの人と同じ食べ方をしているのが分かりました。

児⑫：アメリカでは、ごはんの上にさとう・生クリーム・バターなどをまぜて、おかしのようにして食べるそうです。

カナダでは、ごはんの上にシチューみたいなのをかけて食べるそうです。

T：たくさん調べましたね。どうやって調べたのか、みんなに話してください。

児⑪：いろいろな国の人が見つからなかったんだけど、他の人に相談したら、外国に住んだことがある人とか、旅行に行ったことのある人に聞いたらと教えてくれたので、たくさん調べることができました。

児⑫：ぼくのおとうさんはテレビで見たことを教えてくれました。

○ 次への活動のきっかけとなる場づくり

ここでは、本校の近くにおられる「おはぎづくりの名人のTさん」に来ていただき、本時の学習後、子どもたちと保護者がおはぎづくりを体験する場（第3時）を設定した。

4 考察

本実践を授業仮説に照らして考察する。

「自分なりの方法で調べたり、やってみたことを友だちに伝えたり、友だちの表現を受けとめたりすることができる」についての児童の活動と反応は次のように考えられる。

調べ方や発表の仕方については、前述の表現ア～サまでの活動が示すように、どの児童も自分に最もふさわしいと考えた場所で、自分なりの工夫ができた。また、友だちの表現に対しては、3名の抽出児の反応から、特に次に示す場で強く受けとめることができたと思われる。

イ) お米はどうやったらご飯になるか ————— 自分たちでできそう、やってみたい、

ウ) 三角おむすびを作ってみよう ————— 食べてみたいという思いが生まれた。

ク) 米のものは何か ————— 稲穂の実物や発表者のおとうさんが、
コンバインによって実演してくれてい

る写真など、提示された資料が子ども達の気持ちを高めた。

コ) おだんごは本当にお米 ————— 一人に一本ずつあり、食べてみたいとからできているのか いう強い思いが生まれた。

なお、サ) の「お米でできているおかしはあるか」については、食べることのできるものがたくさん提示されていたが、米の形をとどめていない加工品であったことから、「米」「ごはん」としての驚きや感動といった反応はあまり見られなかった。

「新たな問題を見つけたり、自分なりの方法を考えて、活動する楽しさを味わうであろう」について授業後の抽出時の新たな問題及び活動の様子から見ていく。

児童⑮	児童⑨	児童⑩
<p><最初のめあて> お米やさんはパンを食べるか パンやさんはお米を食べるか</p>	<p><最初のめあて> さんかくおむすびをつくってみたい</p>	<p><最初のめあて> 一ばんおいしいおちゃづけをさがす。</p>
<p>◎授業終了後の感想（記述） ⑨さんの炊いたご飯がおいしかった。すごいと思いました。</p>	<p>ラップをつかったらうまくいったけど、のりをまくのをわすれていました。</p>	<p>おはぎのおばあさんにおかあさんもならったから、あんしんです。</p>
<p><新たなめあて> 自分でお米をあらって、ひとりでごはんをたいてみる。</p>	<p><新たなめあて> さんかくじゃなくて、もっとかたちとかのおもしろいおむすびをつくる。</p>	<p><新たなめあて> おかあさんとおはぎを作って長野けんの（父親の仕事先）おとうさんにもっていく</p>
<p>◎めあてに対する活動内容 家族が留守の時に、一度ご飯を炊いた→失敗、母親と練習をして、一人でご飯を炊くことができるようになった。</p>	<p>自分で設計図を描いて、米飯給食日を利用して、おむすびづくりに挑戦した。</p>	<p>家庭では、学習後の秋分の日におはぎを母親と作っている</p>

児童⑮は、これまでご飯を炊飯器で炊くことは知っていたが、どのようにするのかその方法について、意識があまりなかった児童である。この児童にとっては、友だちの表現の中で、特に下学年（1年生）の児童⑨が炊いたご飯を試食して、おいしかったことが驚きであったようである。そのため、次のめあては、自分で米を洗って炊くということであった。学習から1カ月後の家族の留守の際に、一人で炊飯に挑戦している。その時の失敗が、さらに母親との練習という新たな活動を生んだようである。

